

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	越前市児童発達支援センターなないろ(早期支援教室)		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	令和8年1月22日		～ 令和8年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	さまざまな専門職(保育士・言語聴覚士・理学療法士)がG保育を担当する体制となっており、多職種でお子さんの特性や課題を捉えたり、お子さんに合った支援方法を考えたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 療育後に担当職員全員で振り返りを行い、お子さんの姿や反省を共有したり、次の療育内容に向けた意見を出し合ったりしている。 個別支援計画立案の際は、職員全員で検討している。 支援等について話しやすい雰囲気づくりをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> お子さんの発達や興味を大切に、「やった、できた、たのしい」と思ってもらえるような課題を常に探り、より充実させていきます。 課題が固定化しないように工夫したり、お子さんの理解や発達段階に合った遊びを提供できているかを丁寧に考えます。 遊びを積み重ねる場合は、ねらいを明確にします。
2	こどもの成長や発達の基盤となる親子関係や家庭生活を安定・充実させるために家族に寄り添った丁寧な支援を心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> 親子通所であるため、お子さんの活動の様子や行動を確認しながら、その理由や適切な関わり方を都度、保護者と共有できる。 お子さんへの理解につながるようペアレントプログラム等の学習会を実施し、家庭で取り組めそうな具体的な目標等も一緒に考えている。 保護者のご負担軽減のために、学習会は療育に来所日に設定している。 保護者が交流できる機会(なないろカフェ等)を実施している。 ご希望等に応じて、個別面談の時間を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の思いを丁寧に聴取し、ご家族自身のエンパワメントを前提とした支援を今後も心がけます。 保護者に毎回渡し、記載していただいている記録のコピーをいただき、保護者の思いを知ることや支援に活かせないかを検討します。
3	職員の資質向上のため、研修を積極的に受講している。	<ul style="list-style-type: none"> 職員体制を調整し、外部研修を受けられるようにしている。 研修受講後は、その内容を職員全員に共有し、療育に反映するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も積極的な研修受講等を通じて、支援の質の向上に努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメント(SAPLI・TASP)を活用しようとしたが、評価の質の向上や家族支援、地域支援に活かせるよう改善していく余地がある。	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より、発達相談の段階でSAPLI評価をするようにしている。取り組み始めたばかりであり、評価に慣れが必要。また、療育において適切な遊びを設定できているかや家族支援で家庭で取り入れるとよい遊びなどを伝えられるようさらなる学びが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度、アスベ・エルデの会主催の遊びを通してコミュニケーションを支援するプログラム(あそプロ)の研修を受講し、職員全員で共有します。
2	きょうだいを含めた支援については、不十分などところがある。	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度は通所児親の会こじかの会の行事で親子(きょうだいも含む)で参加できる行事を年1回設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 通所児親の会こじかの会と共にきょうだいを含めた支援のあり方を検討していきます。
3	事故対応や災害対応等の緊急時の対応マニュアルを整え、訓練も行っているが、実際の緊急事態が起こった際によりスムーズに対応できるよう備えが必要と考える。	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルは情報量が多く、実際に対応する際にスムーズに対応できない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルの内容について、職員への周知や理解に努めます。 緊急時をより想定した訓練を実施します。 保護者に対しては、必要な情報をわかりやすく整理して伝えるようにします。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日						回収数	
越前市児童発達支援センターなないろ(早期支援教室)		令和8年3月18日						38	31
		利用児童数				回収数			
		38				31			
環境・体制整備	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	31							
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	29	2			・先生が4人になって活動しやすくなりました。	目が行き届くよう人員配置の要件以上の職員を配置しています。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	31							
4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	31				・冬場は乾燥が強いので、加湿器があると感染予防になると思います。	高性能空気清浄機を各部屋に置き、感染予防に努めています。			
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	28	1	1	1	・決められたルールから少しでも外れると都度指摘を受ける感じは、少し緊張感があり過ぎると思います。	好ましい行動を伝え、専門職を配置し、専門性のある支援に努めています。		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	28	1		2	・公表しているプログラムが分からない(知らない)	年度当初や通所開始時のオリエンテーション時に、説明・配布しています。その他の書類も多いため、わかりやすいように工夫します。		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	31							
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	31							
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	31							
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	28	3				同じ活動が数回続くことがありますが、経験の積み上げやその回毎のねらいを考えていますので、療育前の活動説明時にお伝えします。		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	24	2	4	1		通所されているお子さん全員が地域の園に通われているため、園との交流は特に行っていません。地域支援として、入園される際の移行支援や保育所等訪問支援を通じて、他のこどもの活動がよりよくなるように支援します。		
保護者へ	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	31							
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	31							
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	30	1				各グループにおいて、お子さんの発達や関わり方などに関する学習の機会を設けています。仕事へのご負担のないよう通所時に親子分離で行いますので、ぜひご参加ください。		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25							
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23	1			1	・先生が他の保護者と話をしている、タイミングがつかめず相談できないことがあります。	通所時にお子さんの様子や関わり方について、お子さんや保護者に寄り添い、共感しながらお伝えすることを心がけています。保護者のおひとりおひとりにお声かけする際に、相談したいことの有無や具体的な対処法についてもお伝えできているか等について都度確認します。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25					・共感がありがたいのですが、具体的な対処法を教えてくださいと思うことがあります。 ・子どもの気持ちに寄り添った支援をしていただいているなと感じます。		

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	25	2		4	・参加したことがなく分からないが、定期の行事をされていると思う。	通所児親の会ごじかの会にて親子・きょうだいで参加できる行事を企画開催していますので、ぜひご入会ください。また、なないろカフェ(保護者同士の茶話会)等もありますので、ご都合に合わせてぜひご参加ください。各グループで学習会を実施する際は、保護者同士がつながりやすいような雰囲気づくりをします。	
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28			3		保護者のご都合に合わせて、通所日とは別に面談の機会を設けています。ご希望がございましたら職員にお気軽にお声かけください。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	31					・他の保護者の方と情報交換をする場もあり、ありがたいです。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22	5		4		ホームページやInstagramにつながる二次元コードを各部屋や掲示板にて案内していますので、ぜひご覧ください。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	31						
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28	1	1	1		各マニュアルを策定し、各部屋に掲示しています。避難訓練は、グループ保育時に実施しています。お休みされた場合は、次回の通所時に避難方法などをお知らせするようにします。職員は、市民プラザたけふ入居団体の地震・火災を想定した避難訓練に参加し、有事に備えています。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29	2				事故等は幸い発生していませんが、ヒヤリハットすることは時々起きるため、その場ですぐに保護者と状況や対応を共有します。重要事項説明書に記載の通り、医師の判断が必要と思われる場合には、協力医療機関へ連携し、対応します。そこまではないと判断した場合は、その後の経過(体調や痛みの変化の有無)などについて、保護者に連絡し、確認するようにしています。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30	1					
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	27	3		1			
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	30	1				環境の変化、初めてや慣れない場所や活動等に戸惑いが少なく、安心して楽しく通所していただけるよう工夫に努めます。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	28	3			・お友達の名前を覚えて楽しみにしています。 ・通所回数がなかなか増やせないこともあり、もっと慣れていけたら良いのと思うこともあります。		
	29	事業所の支援に満足していますか。	31				・先生方が子どもの「できる」に目を向けてくれ、言語化してくれるので本人の肯定感が高くなり、ありがたいです。		

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		越前市児童発達支援センターなないろ(早期支援教室)		公表日		令和8年3月18日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		・ 人員配置基準以上のスタッフで、状態等に合わせた丁寧な対応を心がけている。	適切な人員配置を継続し、また、スタッフ全員が、お子さんの特性を適切に理解し、支援できるよう努めます。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・ 同じ部屋を複数のグループで利用しているので、衝立、BOXなどで必要な構造化している。 ・ 構造化されているため、こどもにとって過ごしやすい環境になっていると思う。 ・ 特性を考慮し、必要に応じて衝立を使用するなど、活動に集中できるよう工夫されている。	構造化についてさらに学んだり、環境設定について改善の余地はないか検討したりします。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・ 刺激の少ない分かりやすい環境になっている。 ・ 特性を持つこどもが生活、活動する上で分かりやすいように(可視化できるよう)様々に工夫している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・ 療育室↓隣の相談室`又は室内にスペース有り。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		・ 療育後、振り返りの場、次回の活動設定を療育担当職員全員で行っている。	お子さんの行動を予測し、特性に合わせた適切な課題設定を継続します。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・ 療育後の振り返りやG会議を通して、意見交換する機会がある。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	・ 行っていない	外部評価は行っていない旨を重要事項説明書に記載しています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・ 講演を聞くだけでなく、グループワークなどで学ぶ場も設定されている。	外部研修を積極的に受け、結果報告や伝達研修にて他職員にも共有します。また、学んだことを療育に反映して質を高めます。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		・ SAPLIやTASPといった新しいアセスメントを取り入れた。	発達の5領域、特性、環境等の把握など、適切な評価ができるよう質の向上に努めます。昨年度と今年度、研修を受けたSAPLIやTASPも積極的に活用しています。お子さんの思いやニーズについては、状況調に内容を盛り込み、把握するように書式を変更しました。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・ 毎週、職員全員でカンファレンスを行っている。 ・ 児童発達支援計画を作成し、アドバイスをもらうことで様々な職種の視点が入り、よりこどものニーズや課題に沿った計画になっている。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・ 半年ごとに見直しということで、こまめに計画内容を確認する必要がある。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・ 新しく取り入れたアセスメントTASP、SAPLIを実施中。			

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	・ 昨年度のプログラムを参考にしつつも、今年度のこどもの特性、課題に合わせて考えている。 ・ マンネリ化してしまう傾向にあるので、時には書籍やネットを活用するようにしている。	お子さんがやってみたい、楽しいと思える遊びや5領域の視点を大切にします。遊びのアイデアを得るツールを活用し、さまざまなプログラムを計画実施します。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			SAPLIの研修で学んだ遊びのレベルを活かし、個別と集団活動の組み合わせながら、活動を設定することを今後も継続します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・ 活動の確認や職員の役割、担当を確認し合う場を持っている。 ・ 打ち合わせを行い、チームで情報を統一して支援できていると思う。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・ 担当職員全員で行っている。 ・ 終了後は氷山モデルで振り返りを行うことで、よりその児の特性を振り返ることができ、支援を検討できている。 ・ 必ず振り返りの場があり、複数のスタッフの視点での意見交換があることで多くの学びにつながっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1	・ 半年ごとになっているのが現状なので、見返すよう心がけないといけないと感じている。	お子さんの状況に応じて、計画見直しが必要な場合は、対応します。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		・ 医療とは文書でしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		・ 園からのサマリーシートや保護者からふくいっ子ファイル、サポートブックでつなげている。	就学に向けて園がサマリーシートを作成する際に、必要に応じて内容の確認等のサポートを実施するようにしました。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	6			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	6			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3	3	・ 担当者が参加している。	結果を職員全員に共有することを継続します。
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6			

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・療育の中で保護者と共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		・ペアプロ、保護者学習会、療育研修会など ・ペアトレ、ペアプロを導入しており、その他、保護者に有益な研修会も設定している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・契約の際に丁寧に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・状況調で確認し、作成している。 ・面談の際にも意向を確認するようにしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		・保護者同士は交流する場があるが、兄弟間での交流の場は設けていない。 ・兄弟同士の交流はないが、全体行事には兄弟児の参加は多い。 ・こじかの会やクリスマス会で交流を設ける機会を設定している。	きょうだい同士で交流する機会はありませんが、通所児親の会こじかの会にてきょうだいも参加できる行事を企画開催しています。なないろカフェ(保護者同士の茶話会)や各グループでの学習会において、保護者同士がつながりやすいような雰囲気づくりをします。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・職員間で共有し、対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		療育研修会などの際に、関係者や市民に見学をしていただける機会を今後も設けます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			職員は、市民プラザたけふ入居団体の地震・火災を想定した避難訓練に参加すると共にBCPIに基づく訓練を実施します。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	3		支援する上で大切な情報については、情報収集と職員への周知に努めます。てんかん・服薬・アレルギーのことも把握できるよう状況調に記載できるように改善します。また、アレルギーがあるお子さんの一覧を作成し、リスク回避に努めます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3	・食事提供はしていない ・おやつのみ提供。アレルギーは親からの聞き取りのみ。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・療育後、振り返りの中で確認、共有する場を持っている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・虐待防止の研修、虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会を開催し、適切な対応をしている。個別支援計画にお子さんに合わせた必要な文言を記載するようにした。		

	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6			
--	----	--	---	--	--	--